

## 情報公開文書

### [研究名]

集中治療領域における大建中湯を中心とした漢方薬の使用は経腸栄養を促進するのか

### [意義・目的]

栄養を生来の経路である腸管から吸収することは、人体の機能を維持するためには、極めて重要であり、特に集中治療を受ける重症患者においては、栄養を点滴で投与するより、腸管を用いて投与することで、病状の改善率が良くなることが知られています。このことを受けて当院 ICU では、以前より、患者様の栄養管理を行う際、経腸管栄養を第一選択としてきましたが、術後に限らず重症患者様では、腸管機能が低下しているため、嘔吐などが生じていました。近年、東洋医学から発生した漢方薬が、消化器外科、小児科領域などで注目されており、我々も漢方薬を積極的に取り入れるようになっていきます。今回、漢方薬を導入したことで、患者の経腸管栄養受け入れが改善されたかをカルテの記録を基に検討することで、集中治療という西洋医学の最先端領域に東洋医学を取り入れることの意義を証明することができます。

### [方法]

当院 ICU に入室し、経腸管栄養を受けた全ての患者様を対象に過去のカルテの記載を調べ、経腸管栄養投与後の、胃液逆流量、嘔吐の頻度、栄養の増加率、便の頻度などを、漢方を投与された患者様と投与されていない患者様で比較します。

[対象者] 平成 25 年 10 月～平成 28 年 5 月までに、当院 ICU に入室し、漢方薬を投与された方を含む経腸管栄養を受けた全ての患者様

[研究機関名] 弘前大学医学部附属病院

[当該研究に関わる研究者名] 丹羽英智

[個人情報の利用目的] 学会発表、論文作成

[保有する個人情報の開示の求めに対する対応] 診療録から収集された個人情報であるため、診療録の開示基準に該当しない限り、応じることはできません。

[苦情の申し出先及び問い合わせ先]

弘前大学医学部附属病院 集中治療部 0172-39-5322

弘前大学附属病院病院長 0172-33-5111

情報の使用を希望しない患者様は、39-5322 集中治療部までご連絡下さい。